

産業医 訪問

第2回

三井住友銀行

産業医 井上 ゆか子 氏



臨床での経験を産業医活動に生かす

重症化予防に取り組みると感じたからです。

私は1988年に慶應義塾大学医学部を卒業し、研修で同病院の内科のすべての科を2年間回った後、川崎にある日本鋼管病院に出張しました。先輩方の指導の下、さまざまな症例を経験し、その後、大学に戻って内分泌代謝科に入局しました。

同科を選んだのは、研修で最初に回り、とても印象が深かったことや、日本鋼管病院で多くの虚血性心疾患の症例を診て、初期の段階から糖尿病や脂質異常症をしっかりと治療することで、



訪問

入局後は、研修医の指導を含めた臨床業務を行いつつ、1型糖尿病における自己抗体の研究を始めました。抗GAD抗体もまだ自分たちで測定するしかなく、血糖管理と合併症予防の研究、DCCIがようやく発表された頃でした。当時は無給でしたので、生計を立てるため、さくら銀行（現・三井住友銀行）で、非常勤医として3年間ほど外来診療をしていました。

その後、大蔵病院（現・国立成育医療センター）勤務を経て、2000年からは聖母病院で2人の子育てをしながらの勤務が始まりました。聖母病院はお産件数の多い病院です。甲状腺疾患や糖尿病、妊娠糖尿病などの内分泌代謝疾患を合併する妊婦さんも多く、適切な治療ができるよう、甲状腺と妊娠の大家である百浜尚子先生（東京都予防医学協会保健会館クリニック）の下で、貴会保健会館クリニックの診療に携わる機会もいただきました。外来、病棟業務や当直とめまぐるしい日々で

あったと思います。そして現在、非常勤で勤めていた時のご縁もあって、三井住友銀行で専属産業医として勤務しています。

健診結果の判定、過重労働者やストレスチェック後の希望者との面談、疾患を抱える職員の支援をしつつ、銀行内の診療所の外来も担当しています。また、今でも週に1回、聖母病院と保健会館クリニックで外来診療をしています。健診で糖尿病や甲状腺異常を指摘される方もいて、産業医活動に今までの経験が役立っていると感じています。

治療と仕事の両立や子育て世代を支援

当行の主な活動拠点は東京と大阪にあって、東京の専属産業医は7人です。職員数は全体で約3万4000人、そのうちの約3分の2が東京で、産業医1人当たり約3000人の職員を受け持っています。大所帯ですので、健診部門、健康管理部門、診療所部門、それぞれスタッフが系統的に関わっています。

過重労働者等への産業医面談の他に、保健師が支店に向き、職員の全員面談を行っているのも特徴です。訴えがなかった職員でも、実際に会ってみると、さまざまな健康問題を抱えていることが少なくありません。東京の場合、名古屋から北海道まで出かけて面

談し、産業医に情報を伝えてくれるため、健康管理に非常に有用です。

病院だけで外来診療していた時、忙しくて病院に来られないという患者さんに、「自分の身体の方が大事」と说得ばかりしていましたが、産業医として仕事の現場を目の当たりにし、治療と仕事の両立の大変さを実感して、少し広い視野で考えられるようになりました。

病院では、患者さんの病状に関することを本人以外と共有することは原則ありませんが、産業医は、本人の同意を得つつ上司に病状を説明したり、就

業上の配慮について相談することも必要です。特に最近は、がんをはじめとして、病気を抱えながら働いている方が大勢います。職員が仕事と治療を両立できるように、今後も就労支援を続けていきたいと思っています。

また今は、結婚や妊娠を機に退職する女性は減り、育児をしながら働く職員が増えました。私も子育てと仕事の両立に奮闘した経験があり、多忙を理由に自分の健診は後回しにしてしまった思いもありますので、こうした職員の方にもなりたいたいと思っています。

産業医としてまだ経験が浅い私ですが、職員が心身の健康を保ちつつ、その能力を十分に発揮できるように、支援していきたいと思っています。